

占部城

嵯峨源氏の武将渡辺綱の後裔である、渡辺道綱が三河国額田郡浦部村に移住して築城したのが、占部城の創築といわれている。その子である範綱より松平宗家〔桜井松平家〕に仕え、氏綱―高綱を経て、槍の半蔵で知られる渡辺半蔵守綱（1542～1620年）へ続く。1563～1564年「三河一向一揆」の時、熱心な一向門徒の高綱、守綱父子は家康軍と対峙し、高綱は討死。守綱は許されて家康に仕えた。その後、「槍の半蔵」として1572年「三方ヶ原の戦い」、1575年「長篠の戦い」および1584年「小牧、長久手の戦い」などで戦功を挙げた。1590年家康関東移封に伴い、守綱も武蔵国比企郡3000石を得、野本陣屋を築いて移転した。これによって占部城は廃城となったと考えられる。現在の城址は国正町の集落となっている。その後、守綱は1600年「関ヶ原の戦い」の後、1000石の加増を受けた。1610年尾張初代藩主徳川義直の附家老に転じ、1613年1万4000石で寺部城の地（豊田市寺部町）に陣屋を構えた。1614～1615年「大坂の陣」で義直の初陣を補佐し、1620年に没した。「徳川16神将の1」である。占部城は現在、宅地になり、土塁の一部が残っている。愛知県道43号線と占部川が交差する思案橋北西の真妙寺、国正町公民館辺りが字竹ノ下で、更に北西の木工所辺りが字西浦になる。木工所の並びの最西部の家が城跡と云われ、田んぼ側の宅地端に土塁の一部が見られる。

本項は以下の資料を引用している。

〔六ッ美南部の歴史・文化を紐解く〕

著者 岡崎市立六ッ美南部小学校 高須 亮平
発行日 2012（平成24）年3月31日 初版発行
印刷所 ブラザー印刷株式会社



占部城西側
20150802



占部城西側土塁
20150802



占部城南側
20150802



占部城北側
20150802



占部城城址
20150802

